

校訓	真善美	令和6年度 学校だより	発行日	令和6年4月17日
教育目標	自ら考え、行動し、 未来を創造できる生徒の育成 -感謝する心、確かな学力、健やかな心身を育てる-	「荒中だより」 卯月 第2号	発行者	伊丹市立荒牧中学校 校長 山崎 佳恵

【新入生誓いのことば】 ～第45回入学式において～

暖かい春の気配に、鳥や虫、花や草が目を覚まし、命のめぶきを感じる季節になりました。

私たちも6年間の小学校生活を終えて、今新しい一歩を踏み出そうとしています。

これから始まる中学校生活に対して私は、少し不安な気持ちと楽しみな気持ちでいっぱいです。

まず、なにより不安なのは勉強です。算数は数学になり、英語の内容は小学校より難しくなると聞いています。先日受けた新入生テストの雰囲気は、小学校のテストとは少し違い、なんだか緊張しました。早く学校生活に慣れて、しっかり勉強に時間を使えるようにしたいと思います。

もう一つ、不安とは少し違うのですが、先輩とうまくやっていけるのかが心配です。以前中学校を訪れたとき、「起立・礼」の号令に合わせて、一致団結して動く先輩の姿を見て驚き、自分たちももうすぐ、この輪の中に入るのかと思うと、とても緊張しました。中学校生活が始まったら、まずは先輩方の姿をまねて、話をよく聞き、早く荒牧中学校の一員になれるように頑張ります。

私が一番楽しみにしているのは部活動です。去年の11月にあったオープンジュニアハイスクールで部活動の見学をさせてもらったとき、自分が入りたいなと思った部活動がありました。たくさん努力し、全力で取り組んでいきたいです。

また、体育大会のような大きな行事も楽しみです。小学校とは違った内容だと思うし、私の知らない行事もあると聞き、とてもわくわくしています。

新しく始まる部活動、小学校にはなかった学校行事、とても楽しみです。大きな環境の変化や勉強と部活動の両立に少し不安もあり、悩んだり立ち止まったりしてしまうことがあるかも知れません。そんなときは仲間と支え合いながら一歩ずつ前に進んでいきたいです。私は荻野小学校出身ですが、まずは天神川小学校や、その他の学校から来た人たちに積極的に話しかけ、早く仲良くなりたいと思います。



小学校6年生の1年間は、友達との思い出も多く、とても楽しく過ごせました。そして、驚くほど早く終わってしまいました。

これからの中学校生活も、そんな風に、過ぎていくのがもったいないと思えるような日々になりたいです。たくさんの出会いを大切にして仲間との絆を深め、今何をやるべきなのかを考え、中学生としての責任と自覚を持ち、この3年間で最高の思い出を作っていきたいと思います。これからたくさんの方にお世話になります。どうぞよろしくお願いいたします。

令和6年4月10日 新入生代表

【入学式から1週間が経ちました】

今年度の入学式は、5年ぶりに、2、3年生の在校生や、たくさんの保護者、来賓の方々に見守られた、制限のない盛大な式になりました。そして、新制服デビューの歴史的瞬間を多くの人が、見守り、スタートした令和6年度は、荒牧中学校のまさに“変革の年”として、活力と希望を感じました。誰にとっても居心地の良い学校を、みんなで一緒に創っていきましょう。入学してからの1年生は、生徒会を中心とする先輩方から、中学校生活についての説明を聞き、自分に何ができるかをしっかりと考えて行動していました。生徒会の一員として、自分の力を伸ばすため、仲間のため、学級のため、学校のために生かそうと、学級役員選挙では、積極的に手を上げてくれる人がたくさんいました。また、部活動見学では、オリエンテーションで気になった部活や、もっとみてみたい部活の見学に行き、自分で感じて、考え、決める様子が見られました。小遠足では、校区の公園まで歩いて行き、大縄大会で、声と心をあわせて一生懸命に取り組むことができました。たかが1週間、されど1週間。少しずつ、中学生らしい顔つきになってきました。2、3年生は、新入生が入ってから、自分たちにできることとして、荒牧中学校の伝統を『ことばと態度』でしっかりと示すことができます。今までできなかったことにも、前向きにチャレンジする態度や先輩としての在るべき姿に魂が宿っています。今の2、3年生は、カッコいいです。誇りに思います。

新入生は、先輩の姿を見て『あたりまえ』の基準を決めていきます。基準が高い荒中生の良さをこれからもしっかりとアピールしていきながら、お互いに、自分自身を、学年を、磨き高めて更なる成長を目指して欲しいと思います。

